電話：092-919-7676
ホームページ：http://www.h5.dion.ne.jp/~m_clinic

感染性胃腸炎

今年の夏は異常に暑い日が続き、食欲が落ちて体力の消耗が激しく、細菌やウイルス感染によって腹痛・発熱・嘔吐（吐気）・下痢を起こしてくる感染性胃腸炎がしばしば見られます。暑い時に嘔吐・下痢が続いて脱水症を引き起こし症状が悪化することもあり、特に小児や高齢者では注意が必要です。細菌感染やウイルス感染が単独で起ることもありますが、発熱や食事が入らないことによる体力の消耗で免疫力も低下しており、細菌感染とウイルス感染が同時に起っていることもあり症状が長引くことがあります。当クリニックでも、吐気・嘔吐、下痢、発熱、強い倦怠感などの症状で受診され、感染性胃腸炎の診断で点滴治療や投薬治療を受けている方が増えており、年齢層は小児から高齢者まで幅広く見られます。検査では白血球数が増加している方が多く、細菌感染とウイルス感染が合併していることが疑われます。

細菌性胃腸炎

食品衛生法で食中毒の原因菌とされているもので、サルモネラ、腸炎ビブリオ、腸管病原性大腸菌、黄色ブドウ球菌、ウエルシュ菌、セレウス菌、カンピロバクター、ボツリヌス菌、エルシニア、腸炎ビブリオ、プレシオモナス、リステリアなどがあります。夏の暑い時期、吐気・嘔吐、下痢、腹痛、時に血便などの急性消化管症状に発熱を伴う場合には細菌性胃腸炎が考えられます。細菌胃腸炎の診断は症状、経過（集団性の有無、食べ物についての問診など）、便や血液などの検査で行います。治療は抗生物質と補液が基本ですが、原因菌によって違ってきます。細菌性胃腸炎（食中毒）の詳細はホームページを見て下さい。

ウイルス性胃腸炎

プール熱（咽頭結膜炎）として知られているアデノウイルス３型感染でも胃腸症状が見られることがありますが、胃腸症状を起こすのはアデノウイルス40型・41型が主です。ロタウイルス感染は冬から春にかけてにかけて乳幼児に多く見られます。小型球形ウイルスであるノルウォーク因子（ノロウイルス）、サッポロウイルス（サポウイルス）などによる感染でも発熱・嘔吐・下痢を起こします。大体通年性に見られる（秋から春にかけて多い傾向）年長児から成人の感染性胃腸炎の中では検出頻度のもっとも高いウイルスで、終生免疫を得ることはなく何度でも感染することがあります。腸管型アデノウイルス感染症同様、治療の基本は対症療法と脱水の治療（予防）です。脱水に対しては補液（点滴）を行い、ある程度症状が改善したら経口で電解質の入った水分（スポーツドリンク系）を補給するようにします。コクサッキーウイルスＡ・Ｂ（手足口病の原因となるウイルス）やエコーウイルスなどのエンテロウイルス群も胃腸症状を起こす原因ウイルスですが、主な症状や治療法等は他のウイルス性胃腸炎と同様です。

お尋ねになりたいことはご遠慮なくどうぞ
また、色々な病気のお話などむらかみクリニックのホームページに掲載していますのでアクセスしてみて下さい。
http://www.h5.dion.ne.jp/~m_clinic/
院長